

コラム 65 「ハルノート」に対する日本側の反応

東郷外相は、東京裁判の口述書でそのときの日本側の反応を、次のように述べています。

「ハルノートに対する出席者全員の感じは一様だったと思う。米国は従来交渉経緯と一致点を全て無視し、最後通牒を突きつけてきたのだ。我々は、米側は明らかに平和解決への望みも意思も持っていないと感じた。蓋しハルノートは平和の代価として、日本が米国の立場に、全面降伏することを要求するものであることは我々に明らかであり、米側にも明らかであったに違いないからだ。日本は今や、長年の犠牲の結果を全て放棄するばかりか、極東の大国たる国際的地位を捨てることを求められたのである。これは国家的自殺に等しく、この挑戦に対抗し、自らを守る唯一の残された途は、戦争であった。」